

令和5年度事業報告

令和5年度に実施した事業の概要は、以下のとおりである。

1. 英霊顕彰事業

国を守るために命を捧げ、今日の日本の平和と繁栄の礎となった戦没者の慰霊・顕彰を行うことにより、戦争の悲惨さと平和の大切さを後世に正しく伝え、日本の平和と世界の恒久平和に貢献するため、次の事業を実施した。

(1) 戦跡慰霊巡拝

ア. 「土佐之塔」慰霊巡拝

沖縄や南方地域で散華された本県出身の英霊1万8千5百余柱が祀られている沖縄「土佐之塔」への慰霊巡拝を高知県子ども・福祉政策部長、県議会議長及び遺族の参列を得て、11月12日(日)～13日(月)まで1泊2日の日程で実施した。

13日午前に挙行了慰霊祭には、地元八重瀬町関係者など沖縄県から20名に参列いただき地元関係者等の協力により、例年どおり厳粛に慰霊祭を挙行できた。

【高知県からの参加人員 11名】

イ. 遺児慰霊友好親善事業等

遺児慰霊友好親善事業では遺族会報や県広報などにより参加者を募った。この結果、遺児1名、付添(遺児の子)1名が参加した。

(2) 英霊顕彰対策事業

県内市町村や各種団体が執り行う追悼式や慰霊祭等に本部役員や支部役員が参列するほか、メッセージや追悼電報を送付し、英霊の慰霊・追悼を行った。

【参列 15ヶ所、追悼電報等対応 8ヶ所】

さらに、高知県護国神社や靖国神社の例大祭等に協力し慰霊・追悼を行った。

(3) 団体参拝事業

国が8月15日に実施する全国戦没者追悼式へ参列する公費対象の遺族代表を県から依頼を受けて募集し、参加希望者の取りまとめを行い、県とともに遺族団を引率・参列し戦没者の追悼を行った。

・全国戦没者追悼式参列高知県遺族団

遺族 33名 (子18名 兄弟姉妹2名 孫6名 ひ孫1名 その他6名)
付添職員等 4名 (県職員、遺族会職員等)

2. 広報啓発事業

遺族会報を年4回発行(4, 100部発行)し、国の援護行政、日本遺族会の動向や県遺族会及び県下各地域の遺族会の活動状況などの情報を提供することにより、英霊顕彰運動や遺族の処遇改善運動への協力と理解をいただくよう努めた。

また、日本遺族会発行の遺族通信を購読するとともに地区遺族会等に配布し、英霊顕彰運動等の普及を図った。

3. 遺族福祉向上事業

遺族会は、戦没者遺族の処遇改善、遺族の高齢化への対応など多くの課題を抱えており、課題解決へ向けて国等へ働きかける運動を行う一方、会員の資質向上及び遺族運動への理解を深めるための活動を行うなど、主に次の事業を実施した。

(1) 遺族運動推進事業

英霊顕彰、遺族福祉向上を目的とする遺族会活動を推進するため、日本遺族会が主催する各種会議等で、全国の遺族会との意見交換や情報共有等を行った。

日本遺族会が12月14日に都内で開催した第78回全国戦没者遺族大会では、全国の遺族代表346名が参集し、英霊顕彰運動の推進や遺族の福祉向上を訴えた。本県からは、会長、副会長など5名が参加するとともに、大会終了後、地元選出の自由民主党所属国会議員4名の国会事務所を訪問し、遺族会の要望事項実現を要請した。

(2) 老人福祉事業

100歳を迎えた戦没者の妻を表彰し、これまでのご労苦に感謝した。

【表彰者 100歳 3名】

(3) 遺族大会

本年度の遺族大会は、昭和23年に、本会が日本遺族厚生連盟高知県支部として立上げ以来75年を迎えることから、創立75周年記念遺族大会として実施した。

9月9日に高知会館において開催し、各地区会長、遺児代表に加え、約20名の青年部員代表のほか、高知県知事などの来賓の方々にも出席をいただき、全体で約90名の皆様に参加いただいた。

大会では、戦没者の妻44名、援護事業功労者4名にそれぞれ永年の尽力・功績に対して高知県知事表彰が授与され、大会の締め括りには、高知交響楽団の団員(6名)の皆さんによる演奏が披露された。

(4) 青年部事業

8月6日に「ナツボラ(学生の夏休みボランティア体験)」の一環として、高知県護国神社の下境内にある慰霊碑等の清掃活動を行った。当日は、県内の中学から大学までの学生22名とその保護者、合計24名が参加。青年部12名が班長・副班長となって、学生等24名の清掃活動をサポートした。

また、活動企画メンバーによる会議等や青年部総会を開催し、活動方針等について協議等を行うとともに、日本遺族会が主催する研修会等で、全国の遺族会青年部との意見交換や情報共有を行った。

